

# 室蘭工業大学国際交流センター

Center for International Relations  
Muroran Institute of Technology

## 2021年度

# 活 動 報 告 書

Annual Report, 2021



## 目 次

1. 報告書の発刊にあたって .....	1
国際交流センター長 山路 奈保子	
2. 国際交流ポリシー .....	2
3. 国際交流センターの業務 .....	3
4. 国際交流センターの組織 .....	4
5. 学内及び学外の会議等 .....	6
6. 国際学术交流 .....	10
7. 外国人留学生 .....	15
8. 国際交流センター教員が担当した講義 .....	24
9. 室蘭工業大学国際セミナー .....	29
10. 留学生を対象とした行事及び研修等 .....	30
11. 学术交流協定校・機関との交流 .....	34
12. 学生の海外への派遣 .....	35
13. 外国人短期研修生・外国人インターンシップ研修生・外国人研究員受入れ .....	39
14. 国際交流クラブ .....	40
15. 広報活動 .....	41
16. 教員の研究活動 .....	43
17. おわりに .....	46
国際交流センター准教授 小野 真嗣	

## 1. 報告書の発刊にあたって

国際交流センター長（2021年度） 山路奈保子\*

2020年の初頭から続く海外との往来制限も3年目となりました。本学でも学生の海外派遣はまる2年以上停止されていますし、日本に入国できないまま在学期間の半分以上が過ぎてしまった留学生もいます。学内・学外の多くのイベントも行われず、本報告書も2年続けて「中止」「実施せず」が目立つこととなり、寂しい限りです。

日本全体で見ても、東日本大震災直後に微減した後に急速に伸びていた留学生数が、2020年度には大幅に減少しました。新聞・テレビ等では、日本への留学を志しながら、長期にわたって入国制限が解除されないことに失望して留学先を変更する学生の嘆きがたびたび伝えられていました。本学では、今のところ留学生数は維持されていますが、昨今のこうした流れの中で、日本の大学自体が留学先として選ばれにくくなっていくことが危惧されます。

日本から海外への渡航の機会が失われ続けているのも憂慮すべき事態です。内向き傾向が強いと言われる日本の若者の中でも、特に内向きかもしれない本学の学生たちに、少しでも海外を経験させるべく、私たちはこれまでさまざまな海外研修プログラムを企画してきましたが、この2年でそれらをいったんリセットせざるを得ませんでした。これは渡航制限が解かれたら再開すればいいという単純な問題ではありません。プログラム参加を躊躇している学生たちの背中を押してくれるのは、先輩のプログラム参加経験談に他ならず、2年の空白はそうした経験者が減ってしまうことを意味します。今やプログラムを一から構築しなおすに等しい状況であるといえます。

悲観的なことを書き連ねましたが、コロナ禍で遠隔授業やオンラインでの交流が当たり前となったことは、これからの国際交流の様々な可能性を拓ける明るい材料であると言えます。VR技術の発達や機械翻訳の質の向上は、異文化間交流へのハードルを大きく下げることになるでしょう。国外との往来が復旧するころには、2019年以前とはまったく違った世界が広がると考えられ、今はそのための準備期間であるといえます。

これを執筆している現在、ロシアによるウクライナ侵攻の終わりが見えず、世界はますます先行き不透明となっています。本学はロシアにもウクライナにも交流協定を締結した機関や大学があり、どちらからも学生・研究者を受け入れた実績があります。個人的には、かつてウクライナから来た学生が「自分はロシア語が母語なのでウクライナ語はあまりわからない」と言っていたのが思い出されます。つまりその学生は、侵攻の理由にされた「ウクライナのロシア系住民」だったということです。

日本の学生たちも、さまざまな国から来た留学生と接点を持つことで、遠い世界の出来事を自分に引き寄せて考えられるようになるし、「国」ではなく「人」を知る経験を経て、例えばJRの駅で実際にあった「ロシア語による表示を『不快だから』という理由で隠す」などといった短絡的発想も減るのではと思います。地方の小規模大学の国際交流センターも、そうやって平和な世界の構築にほんの少しでも貢献できると信じています。

2022年3月30日

\*現在は九州工業大学教養教育院教授

## 2. 国際交流ポリシー

### 室蘭工業大学国際交流ポリシー

平成24年3月16日制定

(前文)

大学における研究活動のグローバル化はもとより、高等教育の国際市場化、大学卒業者雇用の国際化が進む情勢の中で、室蘭工業大学の国際交流の基本的な考え方を示し、教職員の活動、施策立案の指針とするために、本国際交流ポリシーを制定する。

1. 基本姿勢 室蘭工業大学は「幅広い教養と深い専門知識とともに国際社会で通用するコミュニケーション能力、実践力を持つ人材を育成する」との目標を実現し、本学の基本理念に基づいて国立大学として期待される国際的機能を果たすために、教育および研究における国際交流を推進する。
2. 教 育 国際活動に必要なコミュニケーション能力とは、語学力のみでなく、積極性、行動力、自国および他国の文化に対する理解等を含む幅広い実践力であり、留学生を含む本学学生の全てがこのような能力を持つよう、教育上の努力をする。教職員もまた高いコミュニケーション能力を涵養し、国際的に貢献する。
3. 研 究 教員は研究成果を世界に発信するとともに、海外機関との交流を推進して、研究の一層の活性化に努める。これはまた、学生の国際活動能力、研究能力向上のための教育活動でもあることを認識して研究を推進する。
4. 留学生受入 各種の留学生を積極的に招致する。学部留学生、大学院留学生、その他の短期留学生の適切な配分に留意し、本学の教育研究に資する優秀な学生の招致に努める。またそのための受入れ体制、教育体制の整備、更新を推進する。
5. 地域貢献 地域の国際交流に大学として貢献するとともに、地域の国際交流力を本学の国際活動、国際教育の推進に積極的に活用する。
6. 運 営 上の国際交流推進のため、教育プログラム、施設および学習環境、広報および海外ネットワーク、事務体制およびリスク管理体制、ならびに、これらに必要な予算措置について、長期的な展望をもってその整備を進める。

(付記)

国際交流とは、本学教職員学生による教育、研究上の、海外機関および外国人との交流活動全般をさす。研究成果の国際的発信および研究教育上の交流、各種留学生の受入れと教育、本学学生の国際性教育に関わる外国機関、外国人との交流、事務職員の国際活動を含む。

### 3. 国際交流センターの業務

国際交流センターの業務は、次のとおりである。

(1) 国際交流事業に関すること。

- ・ 外国の大学等との交流協定締結、更新等の支援事務
- ・ 交流協定校等との交流事業及び行事の支援
- ・ 本学教職員の国際活動の支援
- ・ 本学学生の国際性教育の支援
- ・ 本学の国際交流推進に関わる企画、立案及びその支援

(2) 外国人留学生に関すること。

- ・ 留学生(正規生、研究生、聴講学生、短期研修生、インターンシップ研修生を含む)の受入れ支援及び受入れの促進
- ・ 留学生に対する日本語教育その他の教育と、共通教育及び専門教育の修学支援
- ・ 留学生のための宿舎など生活支援に関わる業務及び相談への対応
- ・ 留学生のための各種奨学金の広報、応募、申請、配分支援などに関わる業務
- ・ 卒業・修了者も含めた留学生との交流促進

(3) 外国人研究員に関すること。

- ・ 外国からの研究員及び教職員の受入れ支援

(4) 学生の海外派遣に関すること。

- ・ 本学学生の海外留学、短期研修、国際会議参加などの支援

(5) その他国際交流及び留学生に関すること。

- ・ 国際交流に係わる他大学、地域自治体及び諸機関との連携活動

## 4. 国際交流センターの組織

### 4.1 国際交流センターの構成員

2021年5月1日現在の当センターの構成員は、以下のとおりであった。

国際交流センター長・専任教授	山 路 奈保子
専任准教授	小 野 真 嗣
専任准教授	白 尚 燦
入試戦略課国際交流室	
国際交流室長（国際企画係長兼務）	伊 藤 光 春
留学生係長	武 川 梢
国際企画係主任	田 嶋 学
留学生係主任	高 橋 秀 徳
再雇用職員	西 畑 寿 幸
事務補佐員	野 田 葉津希

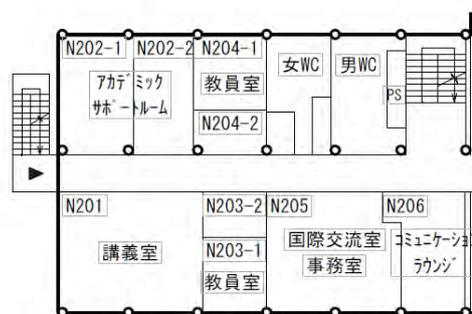
計9名

### 4.2 センターの活動拠点

国際交流センターの活動拠点は、以下の図及び写真に示す事務室、コミュニケーションラウンジ、アカデミックサポートルーム並びに専任教員の教員室である。



事務室



N棟2階フロアマップ



コミュニケーションラウンジ

### 4.3 国際交流委員会

2010年度から、従来の兼任教員に代わって「国際交流委員会」が発足した。その任務は、次のとおりである。また、議題の審議のみでなく、本学の国際交流に関連する企画立案、提言及び事業実施への協力支援の機能も期待されている。

- (1) 国際学術交流及び国際交流事業に関すること。
- (2) 外国人留学生の受入れに関すること。(外国人留学生入試に係るものは除く。)
- (3) 外国人留学生の奨学金に関すること。
- (4) 学生の海外留学に関すること。
- (5) 外国人研究者の受入れに関すること。
- (6) 外国人インターンシップ研修生の受入れに関すること。
- (7) その他国際交流事業及び外国人留学生に関する事項

所 属	職 名	氏 名
—	理事（研究・連携担当） 副学長	船 水 尚 行
国際交流センター	教 授 センター長	山 路 奈保子
国際交流センター	准教授	小 野 真 嗣
国際交流センター	准教授	白 尚 燁
創造工学科	教 授	木 村 克 俊
創造工学科	准教授	加 野 裕
システム理化学科	教 授	佐 伯 功
システム理化学科	教 授	岸 本 弘 立
理工学基礎教育センター	教 授	クラウゼ 小野 マルギット
理工学基礎教育センター	准教授	ペレム ジョン ガイ
しくみ解明系領域	准教授	佐 藤 和 彦
しくみ解明系領域	准教授	安 藤 哲 也
しくみ解明系領域	助 教	澤 田 紋 佳
国際交流室	室 長	伊 藤 光 春

## 5. 学内及び学外の会議等

### 5.1 国際交流委員会

国際交流委員会は、(1) 理事又は副学長のうちから学長が指名する者、(2) 国際交流センター長、(3) 国際交流センター専任教員、(4) 各学科及び全学共通教育センターから選出された講師以上の教員各 2 名 (1 名は教授)、(5) 国際交流室長、(6) その他学長が必要と認めた者で組織される。

2021 年度の国際交流委員会開催日及び審議事項等は、以下のとおりである。

#### 第 1 回 4 月 26 日(月)

議題1. 留学生受入れ促進プログラム（文部科学省外国人留学生学習奨励費）の受給者選考について

- 報告1. 第3期中期目標・中期計画期間における令和3年度年度計画関係分について
2. 第4期中期目標・中期計画原案（国際交流関係分）について
  3. 2021年度第1回外国人客員研究員支援経費公募選考結果について
  4. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について
  5. 派遣留学生の選考結果について
  6. 2021年4月留学生受入状況について

#### 第 2 回 7 月 19 日(月)

議題1. アメリカ・ウェスタンワシントン大学との学術交流協定更新について

2. オーストリア・レオベン大学との学術交流協定更新について
3. 研究生（外国人留学生）の選考について
4. CSC-MuroranIT 奨学金受給者の決定について
5. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金の募集時期及び選考基準について

報告1. 派遣プログラムの募集について

#### 第 3 回 9 月 21 日(火)(持回り)

議題1. 研究生（外国人留学生）の研究期間延長について

2. 大使館推薦による国費外国人留学生の受入れ内諾について

#### 第 4 回 10 月 7 日(木)

議題1. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について

2. 留学生受入れ促進プログラム（文部科学省外国人留学生学習奨励費）の受給者選考について
3. インド・カルカッタ大学応用光学・フォトニクス学科との学術交流協定更新について
4. ベトナム・ハノイ建築大学との学術交流協定更新について
5. ハンガリー・ミシュコルツ大学機械工学・情報学部との学術交流協定更新について

報告1. 2022年度学術交流協定に基づく派遣学生募集について

2. 日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣，協定受入）の募集について
3. 派遣留学生の辞退について
4. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について
5. 第51回室蘭工業大学国際セミナーの開催について

#### 第 5 回 10 月 19 日(火)

議題1. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金受給者の選考について

報告1. 特別聴講学生・科目等履修生の大学院英語コース授業科目の履修について

#### 第 6 回 12 月 17 日(金)

議題1. 研究生（外国人留学生）の選考について

2. 国際共同研修プログラムに係る実施要項等の改正について
3. 国際学術活動支援プロジェクトに係る公募要領の改正について

4. ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生に係る実施要項等の改正について
  5. 中国・上海交通大学コンピュータサイエンス学科との学術交流協定更新について
  6. ドイツ・フライベルク工科大学との学術交流協定更新について
- 報告1. 2022年度学術交流協定に基づく派遣学生募集について

#### 第7回 1月26日(水)

- 議題1. 特別研究学生（外国人留学生）の受入れについて
2. 室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金受給者の選考について
  3. 室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金の申請要件及び選考基準について
  4. 大学推薦（一般枠）による国費外国人留学生（研究留学生）の選考基準について
- 報告1. 民間団体等からの奨学金受給者の選考結果について
2. 2022年度前期ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生の公募について
  3. 2022年度前期佐藤矩康博士記念国際活動奨学賞の募集について

#### 第8回 3月2日(水)

- 議題1. 大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の選考について
2. 2022年度国際共同研修プログラム及び国際学術活動支援プロジェクトの採択について
  3. マレーシア政府派遣留学生の受入れについて
  4. 国費外国人留学生（PBL-AI プログラム）候補者の語学要件の判定について
- 報告1. 2022年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）の申請に係る採否結果について
2. 2022年度日本学生支援機構協定派遣「工学系グローバル人材育成派遣プログラム」の派遣学生募集について
  3. 私費外国人留学生支援奨学金の支援内容見直しについて
  4. 第4期中期目標期間に係る事業計画の工程表について

#### 第9回 3月24日(木) (持回り)

- 議題1. 研究生（外国人留学生）の研究期間延長について

#### 5.2 国際交流センター教職員打合せ会議

定期的にセンター教職員が集まって連絡調整を兼ねた打合せ会議を開催している。

#### 5.3 ハノイ建築大学への室蘭工業大学説明会

開催日：4月12日（火）、場所：オンライン開催  
 出席：小野准教授、Tran Vinh Ha 博士研究員  
 内容：両大学の研究ワークショップ第2部におけるオンライン大学説明会

#### 5.4 室蘭市国際交流推進協議会総会

室蘭市では、国際化時代に対応した地域づくりを進めるため、全市的視野から国際交流を推進することを目的に、室蘭市国際交流推進協議会を組織している。本学は会員として参加するとともに、会長職に空閑良壽学長が就任している。

開催日：5月27日（木）、場所：書面開催

主催：室蘭市国際交流推進協議会

構成：室蘭工業大学、一般財団法人 室蘭市スポーツ協会、室蘭商工会議所、国際ソロプチミスト室蘭、室蘭文化連盟、登別室蘭青年会議所、胆振国際理解教育研究会、室蘭ロータリークラブ、室蘭ライオンズクラブ、室蘭市女性団体連絡協議会、一般財団法人 室蘭ルネッサンス、ノックスビルの会、日照市と友好の会、その他諸団体・機関

- 議題：1. 令和2年度主な事業実績について
2. 令和2年度事業決算書について
  3. 令和3年度主な事業計画（案）について
  4. 令和3年度事業予算書（案）について

#### 5.5 令和3年度北海道・中国交流推進連携会議

開催日：6月11日（金）、場所：書面開催

主催：北海道

- ・令和2年度中国との交流について（実績）
- ・令和2年度中国との交流について（予定）
- ・北海道・黒竜江省友好提携35周年記念事業実施について
- ・北海道・中国交流推進連携会議運営要項（令和3年度改正版）

#### 5.6 ハノイ工科大学と日本コンソーシアム大学とのツイニング・プログラム大学フェスタ

開催日：8月25日（水）、場所：オンライン開催

出席：藤木教授、武川留学生係長

主催：長岡技術科学大学

内容：Web上でのオープンキャンパス及び大学説明会（日本の大学への3年次編入学者対象）

#### 5.7 ハノイ工科大学と日本コンソーシアム大学とのツイニング・プログラム大学説明会

開催日：11月1日（月）、場所：オンライン開催

出席：藤木教授

主催：長岡技術科学大学

内容：大学説明会（日本の大学への3年次編入学者対象）

#### 5.8 令和3年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議

開催日：11月10日（水）、場所：メール開催

主催：佐賀大学（当番校）

- ・政府等機関の所管事項・事業等説明資料
- ・各国立大学法人からの承合事項及び回答一覧
- ・2つの全国国際系会議の統合に向けての検討状況

#### 5.9 令和3年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

開催日：11月17日（水）、場所：オンライン開催

主催：京都大学（当番校）

- ・次年度に向けての検討事項  
『全国国立大学法人留学生センター長及び留学生担当課長等合同会議』との今後の運営方針の検討について
- ・施策等説明資料の情報共有

#### 5.10 令和3年度北海道留学生交流推進協議会総会

開催日：12月7日（火）、場所：オンライン開催

主催：北海道大学

- ・講演  
「コロナ禍の留学生相談：留学生への心理的影響と相談体制の課題」  
石井治恵（北海道大学学生相談総合センター留学生相談室長）
- ・報告  
各団体からの報告事項等  
北海道内における留学生受入等の現状について  
石黒公美（北海道大学学務部学生支援課課長補佐）

#### 5.11 マレーシア日本高等教育プログラム(UniKL JUP)大学説明会

開催日：12月23日（木）、場所：オンライン開催

出席：伊藤室長、高橋留学生係主任

主催：クアラルンプール大学（UniKL）

内容：UniKL大学説明会（日本の大学への3年次編入学者対象）

#### 5.12 多文化共生ネットワーク連携推進協議会

開催日：2月2日（水）、場所：オンライン開催

出席：高橋留学生係主任

主催：公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター

・議事

北海道とハイエックの協定

多文化共生ネットワーク連携推進協議会における連携

#### 5.13 令和3年度室蘭工業大学留学生交流推進懇談会

本学の留学生は、市内外の国際交流推進関係諸団体から種々の支援を受けている。本懇談会は、これら諸団体に対し本学の留学生に対する取組状況等を説明し、意見交換を通して理解を得るとともに、今後の留学生受入れ及び学生生活に係るなお一層の支援を仰ぎ、留学生交流事業の円滑な推進を図ることを目的として開催した。

開催日：2月15日（火）、場所：オンライン開催

主催：室蘭工業大学国際交流センター

出席団体：室蘭市役所、室蘭教育委員会、北海道胆振総合振興局、一般財団法人 室蘭ルネッサンス、室蘭消費者協会、室蘭観光協会、北海道新聞室蘭支社

・大学からの説明

室蘭工業大学の留学生受入れ・派遣状況及び交流状況について

・意見交換

留学生に対する各支援団体からの要望について

## 6. 国際学術交流

### 国際学術交流協定

本学は、教育研究活動の国際化を進めるために、海外の大学、研究機関と学術交流協定を締結し、交流の促進に努めている。2021 年度末時点で 48 大学・4 機関と協定を締結し、研究交流ならびに学生交流を推進している。

国・地域別では中国 10 大学、韓国 8 大学・1 機関、ドイツ 4 大学、タイ 4 大学、ロシア 1 大学・2 機関、台湾 3 大学、フィンランド 2 大学、アメリカ 1 大学・1 機関、マレーシア 2 大学、ブラジル、フランス、オーストラリア、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、ウクライナ、イタリア、ベトナム、インド、インドネシア、モンゴル、ネパールが各 1 大学である。

2021 年度は、COVID-19 により、新規協定締結の実績はなかったが、アメリカ・ウェスタンワシントン大学、オーストリア・レオベン大学、インド・カルカッタ大学応用光学・フotonクス学科、ベトナム・ハノイ建築大学、ハンガリー・ミシュコルツ大学機械工学・情報学部、中国・上海交通大学・コンピュータ学科、ドイツ・フライベルク工科大学との交流協定の更新が行われた。

### 【国際学術交流協定】

以下のとおり、2021 年度末において国際学術交流協定は 48 大学・4 機関である。

(注)担当教員名は上段より連絡窓口 1、2、3 の順に記載

	締結大学・機関名	国・地域	締結年月日	担当教員名
1	河南理工大学	中国	1988 年 11 月 11 日	教授 青 柳 学
2	ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	1999 年 3 月 9 日	准教授 小 野 真 嗣 教授 山 路 奈 保 子
3	ウェスタンワシントン大学	アメリカ	2000 年 10 月 27 日	准教授 ゲイナー ブライアン 准教授 小 野 真 嗣
4	アールト大学電気工学部	フィンランド	2001 年 3 月 15 日	教授 鈴 木 幸 司 教授 濱 幸 雄
5	北京科技大学	中国	2004 年 2 月 2 日	教授 濱 幸 雄 准教授 倉 重 健 太 郎
6	ロストック大学	ドイツ	2019 年 10 月 10 日 <small>(情報電気工学部とは 2004 年 2 月 20 日)</small>	教授 川 口 秀 樹 教授 クラウゼ小野 マルギット
7	忠南大学校	韓国	2004 年 4 月 20 日	教授 濱 幸 雄 教授 鈴 木 幸 司
8	安東大学校	韓国	2004 年 6 月 8 日	准教授 白 尚 燁 教授 藤 木 裕 行
9	釜慶大学校	韓国	2021 年 3 月 17 日 <small>(工科大学とは 2004 年 9 月 1 日)</small>	教授 張 裕 喆 助教 金 志 訓 准教授 白 尚 燁
10	チェンマイ大学	タイ	2005 年 4 月 19 日	教授 風 間 俊 治 助教 関 千 草

	締結大学・機関名	国・地域	締結年月日	担当教員名
11	キングモンクット工科大学 ラカバン校	タイ	2005年4月20日	教授 相津 佳永 准教授 真境 名達哉
12	ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	2005年5月30日	教授 平井 伸治 准教授 葛谷 俊博
13	レオベン大学	オーストリア	2006年10月10日	教授 佐藤 孝紀 准教授 武田 圭生 講師 松本 大樹
14	ミシュコルツ大学 機械工学・情報学部	ハンガリー	2006年11月13日	教授 佐藤 孝紀 准教授 武田 圭生 講師 松本 大樹
15	ハノイ建築大学	ベトナム	2007年3月27日	教授 木幡 行宏 准教授 山田 深
16	ソウル科学技術大学校	韓国	2007年7月25日	教授 張 裕喆 教授 岸本 弘立
17	ダルムシュタット工科大学 電気情報工学部	ドイツ	2007年11月9日	教授 川口 秀樹 教授 渡邊 浩太
18	瀋陽工業大学	中国	2007年11月9日	准教授 白 尚燁
19	華中科技大学	中国	2007年11月12日	教授 清水 一道 教授 董 冕雄
20	蘇州大学	中国	2007年11月26日	准教授 太田 香 准教授 渡邊 真也
21	内蒙古師範大学	中国	2008年6月2日	准教授 徳樂 清孝 准教授 加野 裕
22	韓国海洋大学校	韓国	2009年1月19日	教授 木村 克俊 准教授 吉田 英樹
23	AGH科学技術大学	ポーランド	2009年8月27日	教授 須藤 秀紹
24	極東連邦大学	ロシア	2010年2月19日	准教授 安居 光國 教授 濱 幸雄
25	泰日工業大学	タイ	2010年4月1日	教授 須藤 秀紹 教授 藤木 裕行
26	プリアゾフスキー国立工科大学	ウクライナ	2010年11月11日	教授 清水 一道 准教授 吉田 英樹
27	大葉大学	台湾	2010年12月1日	教授 山路 奈保子
28	ヨッヘ研究所	ロシア	2011年7月12日	教授 平井 伸治 教授 関根 ちひろ 准教授 葛谷 俊博
29	ツヴィッカウ応用科学大学	ドイツ	2012年6月8日	教授 クラウゼ小野 マルギット 教授 相津 佳永 教授 須藤 秀紹

	締結大学・機関名	国・地域	締結年月日	担当教員名
30	ソウル特別市保健環境研究院	韓国	2012年9月20日	教授 張 睿 喆 准教授 矢 島 由 佳
31	北スマトラ大学	インドネシア	2013年2月15日	教授 河 合 秀 樹 教授 大 平 勇 一
32	曲阜師範大学	中国	2013年4月1日	教授 河 合 秀 樹
33	東義大学校	韓国	2014年6月23日	教授 岸 本 弘 立
34	江原大学校	韓国	2014年10月3日	教授 岸 本 弘 立
35	パライナ連邦工科大学	ブラジル	2014年10月7日	教授 清 水 一 道 教授 木 村 克 俊
36	トゥンクアブドゥルラーマン大学	マレーシア	2016年3月1日	准教授 佐 藤 和 彦 教授 塩 谷 浩 之 教授 濱 幸 雄
37	トロワ工科大学	フランス	2016年3月1日	准教授 加 野 裕 教授 辻 寧 英
38	国立台中科技大学	台湾	2019年12月1日 (情報流通学院とは2016年11月8日)	教授 須 藤 秀 紹 教授 山 路 奈 保 子
39	カルカッタ大学 応用光学・フォトンクス学科	インド	2016年11月10日	教授 相 津 佳 永
40	上海交通大学 コンピュータサイエンス学科	中国	2016年12月26日	教授 董 晁 雄
41	エイムズ研究所	アメリカ	2017年5月16日	教授 平 井 伸 治 准教授 葛 谷 俊 博
42	工業技術大学	モンゴル	2017年6月27日	准教授 小 野 真 嗣 教授 濱 幸 雄 講 師 松 本 大 樹
43	国立台湾大学・電気情報学部	台湾	2018年11月13日	教授 董 晁 雄 准教授 太 田 香
44	トリブバン大学 プリティビナラヤンキャンパス	ネパール	2019年1月23日	准教授 佐 藤 和 彦
45	フライベルク工科大学	ドイツ	2019年1月25日	教授 クラウゼ小野 マルギット 准教授 安 居 光 國
46	東フィンランド大学 理学・森林学部	フィンランド	2019年3月18日	教授 鈴 木 幸 司 准教授 渡 邊 真 也 教授 董 晁 雄
47	清洲大学校	韓国	2019年8月19日	教授 濱 幸 雄 准教授 高 瀬 裕 也 助 教 金 志 訓
48	ナレスアン大学	タイ	2019年9月19日	教授 須 藤 秀 紹

	締結大学・機関名	国・地域	締結年月日	担当教員名
49	ジェノバ大学	イタリア	2019年10月7日	教授 平井 伸治 准教授 雨海 有佑 准教授 葛谷 俊博
50	大連理工大学	中国	2020年5月9日	教授 董 晁雄 教授 曲 明
51	天津大学・知能計算学部	中国	2020年9月22日	教授 董 晁雄 准教授 太田 香
52	マレーシア工科大学	マレーシア	2021年1月15日	教授 大平 勇一 准教授 小野 真嗣 准教授 白 尚燁

**フィンランド Finland**  
 アールト大学・電気工学部  
 Aalto University School of Electrical Engineering  
 東フィンランド大学・理学・森林学部  
 Faculty of Science and Forestry, University of Eastern Finland

**ポーランド Poland**  
 AGH科学技術大学  
 AGH University of Science and Technology

**フランス France**  
 トロワエクス大学  
 University of Technology of Troyes

**オーストリア Austria**  
 レオベン大学 University of Leoben

**ドイツ Germany**  
 ロストック大学 Rostock University  
 ダルムシュタット工科大学・電気情報工学部  
 Department of Electrical Engineering and Information Technology, Darmstadt University of Technology  
 ツグアウカウ研究所科学大学  
 University of Applied Science Zwickau  
 フライベルク工科大学  
 TU Bergakademie Freiberg

**ウクライナ Ukraine**  
 プリアゾフスキー国立工科大学  
 Priazovskiy State Technical University

**イタリア Italy**  
 ジェノバ大学  
 University of Genoa

**ハンガリー Hungary**  
 ミシュコルツ大学・機械工学・情報学部  
 University of Miskolc

**インド India**  
 カルカッタ大学応用光学・フotonics学科  
 Department of Applied Optics and Photonics, University of Calcutta

**ベトナム Vietnam**  
 ハノイ建築大学  
 Hanoi Architectural University

**タイ Thailand**  
 チェンマイ大学  
 Chiang Mai University  
 キングモンクット工科大学ライカイン校  
 King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang  
 泰日工業大学  
 Thai-Jichi Institute of Technology  
 ナレスアン大学 Naresuan University

**インドネシア Indonesia**  
 北スマタラ大学  
 University of Sumatera Utara

**マレーシア Malaysia**  
 トウンクアブドゥルラーマン大学  
 Universiti Tunku Abdul Rahman (UTAR)  
 マレーシア工科大学  
 Universiti Teknologi Malaysia (UTM)

**ロシア Russia**  
 遠東連邦大学  
 Far-Eastern Federal University  
 ヨッヘ研究所 Ioffe Institute  
 ニコラエフ無機化学研究所  
 Nikolayev Institute of Inorganic Chemistry

**モンゴル Mongolia**  
 工業技術大学  
 Institute of Engineering and Technology

**ネパール Nepal**  
 トリブハン大学・PNキャンパス  
 PN Campus, Tribhuvan University

**台湾 Taiwan**  
 国立台湾大学・電気情報学部  
 College of Electrical Engineering and Computer Science, National Taiwan University  
 国立台中科技大学  
 National Taichung University of Science and Technology  
 大葉大学 Dayeh University

**中国 China**  
 河南理工大学  
 Henan Polytechnic University  
 北京科技大学  
 University of Science and Technology Beijing  
 湘潭工業大学  
 Xiangtan University of Technology  
 华中科技大学  
 Huazhong University of Science and Technology  
 蘇州大学 Soochow University  
 内蒙古師範大学  
 Inner Mongolia Normal University  
 曲阜師範大学  
 Qufu Normal University  
 上海交通大学・コンピュータサイエンス学科  
 Department of Computer Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University  
 大連理工大学  
 Dalian University of Technology  
 天津大学・知能計算学部  
 College of Intelligence and Computing, Tianjin University

**韓国 South Korea**  
 忠南大学校  
 Chungnam National University  
 安東大学校  
 Andong National University  
 釜慶大学校  
 Pukyong National University  
 ソウル科学技術大学校  
 Seoul National University of Science and Technology  
 韓国海洋大学校  
 Korea Maritime University  
 東儀大学校  
 Dong-Eui University  
 江原大学校  
 Kangwon National University  
 清洲大学校  
 Cheongju University  
 ソウル特別市保健福祉院  
 Seoul Metropolitan Government Research Institute of Public Health and Environment

**ブラジル Brazil**  
 パラナ連邦工科大学  
 Federal University of Technology - Paraná

**アメリカ合衆国 USA**  
 ウェスタンワシントン大学  
 Western Washington University  
 エイムズ研究所  
 The Ames Laboratory

## 7. 外国人留学生

### 7.1 留学生数

本学は、1979年から外国人留学生を受入れており、2007年の国際交流センター設置後、留学生数も大幅に増え始め、2009年に初めて100名に、2017年には150名に到達し、2022年は188名を受け入れるに至った。

留学生数(学科別・学年別)を表1に、留学生数(国籍別・身分別)を表2に、留学生数(年度別)を表3に、過去20年の留学生数(年度別)の推移をグラフ1に示す。なお、本活動報告書は2021年度版であるが、最新のデータとして2022年5月1日の数字を計上した。

表1 留学生数(学科・学年別)集計(2022年5月1日現在 計188名)

#### 【学部】

学 科 名	1年	2年	3年	4年	合計
創造工学科	8	9	10	16	43
システム理化学科	5	1	8	9	23
建築社会基盤系学科	-	-	-	6	6
機械航空創造系学科	-	-	-	4	4
応用理化学系学科	-	-	-	6	6
情報電子工学系学科	-	-	-	6	6
合 計	13	10	18	47	88

#### 【博士前期課程】

専 攻 名	1年	2年	合 計
環境創生工学系専攻	7	6	13
生産システム工学系専攻	2	2	4
情報電子工学系専攻	14	12	26
合 計	23	20	43

#### 【その他】

研究生	6
科目等履修生	0
特別研究学生	6
特別聴講学生	0
合 計	12

#### 【博士後期課程】

専 攻 名	1年	2年	3年	合計
工学専攻先端環境創生工学コース	7	5	8	20
工学専攻先端生産システム工学コース	3	-	6	9
工学専攻先端情報電子工学コース	3	8	5	16
合 計	13	13	19	45

表2 留学生数(国・身分別)集計(2022年5月1日現在)

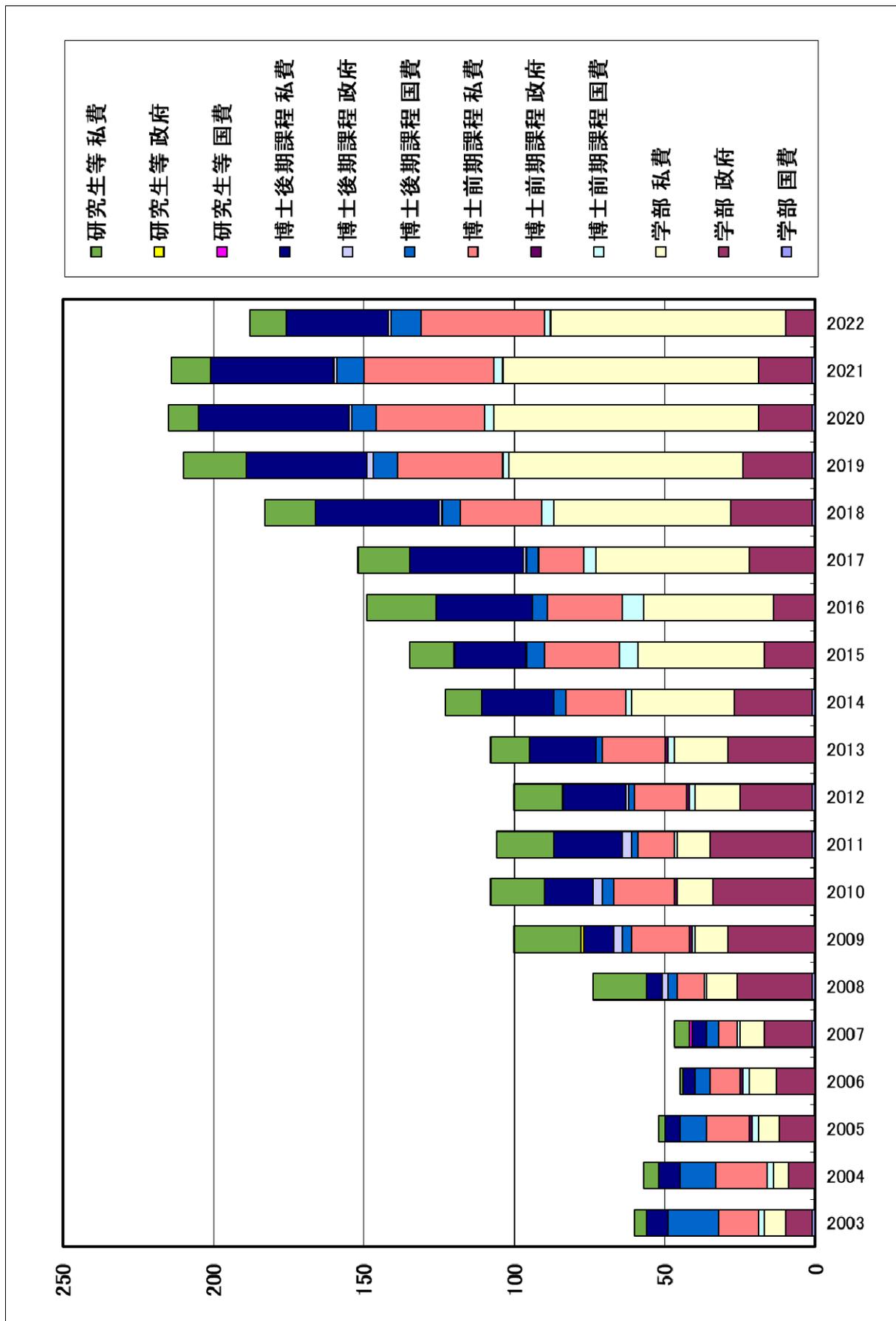
国名	学部			小計	博士前期課程			小計	博士後期課程			小計	研究生等			小計	合計			総計	
	国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費		国費	政府	私費		
中国	0	0	58	58	0	0	31	31	0	0	27	27	0	0	11	11	0	0	127	127	
マレーシア	0	10	9	19	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	13	23
韓国	0	0	8	8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	9	9
ベトナム	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	8	8
ハンガリー	0	0	0	0	1	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5
インドネシア	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3
タイ	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
インド	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
ネパール	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
パキスタン	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	1	2
ハンガリー	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ラオス	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
モンゴル	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
台湾	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1
小計	0	10	78	88	2	0	41	43	10	1	34	45	0	0	12	12	12	11	165	188	

注1 学部私費留学生には MJHEP プログラム 2 名を含む。

表3 留学生数(年度別)集計(各年5月1日現在)

	学 部			博士前期課程			博士後期課程			研究生等			小 計			合 計
	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	国費	政府	私費	
1979	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2
1980	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4	0	4
1981	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
1982	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	7	0	8
1983	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	8	0	9
1984	0	4	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	1	7	1	9
1985	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	4	0	0	5	3	8
1986	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	3	0	2	4	1	7
1987	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	1	3	1	2	6
1988	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	1	10	0	1	11
1989	0	2	0	11	0	0	0	0	0	1	3	0	12	5	0	17
1990	0	4	0	14	0	0	2	0	0	3	2	3	19	6	3	28
1991	0	5	0	11	0	1	5	0	0	1	0	3	17	5	4	26
1992	0	5	0	8	2	5	9	0	4	1	0	2	18	7	11	36
1993	0	3	0	7	5	9	11	0	5	5	0	0	23	8	14	45
1994	0	2	1	12	4	8	12	0	6	3	0	1	27	6	16	49
1995	0	3	2	8	1	8	14	0	5	3	0	1	25	4	16	45
1996	0	5	5	5	1	5	14	0	4	9	0	4	28	6	18	52
1997	0	11	5	12	0	3	15	0	2	0	0	4	27	11	14	52
1998	0	14	4	12	0	3	11	0	4	2	0	4	25	14	15	54
1999	0	14	2	9	0	2	13	0	6	3	0	4	25	14	14	53
2000	0	13	2	10	1	7	12	0	3	3	0	3	25	14	15	54
2001	0	12	3	5	1	11	18	0	3	1	0	1	24	13	18	55
2002	1	10	3	2	0	10	14	1	8	1	0	2	18	11	23	52
2003	1	9	7	2	0	13	17	0	7	0	0	4	20	9	31	60
2004	0	9	5	2	0	17	12	0	7	0	0	5	14	9	34	57
2005	0	12	7	2	1	14	9	0	5	0	0	2	11	13	28	52
2006	0	13	9	2	1	10	5	0	4	0	0	1	7	14	24	45
2007	1	16	8	1	0	6	4	0	5	1	0	5	7	16	24	47
2008	1	25	10	1	0	9	3	2	5	0	0	18	5	27	42	74
2009	0	29	11	1	1	19	3	3	10	0	1	22	4	34	62	100
2010	0	34	12	0	1	20	4	3	16	0	0	18	4	38	66	108
2011	1	34	11	1	0	12	2	3	23	0	0	19	4	37	65	106
2012	1	24	15	2	1	17	2	1	21	0	0	16	5	26	69	100
2013	0	29	18	2	1	21	2	0	22	0	0	13	4	30	74	108
2014	1	26	34	2	0	20	4	0	24	0	0	12	7	26	90	123
2015	0	17	42	6	0	25	6	0	24	0	0	15	12	17	106	135
2016	0	14	43	7	0	25	5	0	32	0	0	23	12	14	123	149
2017	0	22	51	4	0	15	4	1	38	0	0	17	8	23	121	152
2018	1	27	59	4	0	27	6	1	41	0	0	17	11	28	144	183
2019	1	23	78	2	0	35	8	2	40	0	0	21	11	24	174	210
2020	1	18	88	3	0	36	8	1	50	0	0	10	12	19	184	215
2021	1	18	85	3	0	43	9	1	41	0	0	13	13	19	182	214
2022	0	10	78	2	0	41	10	1	34	0	0	12	12	11	165	188

グラフ 1 過去20年の留学生数(年度別)集計の推移(各年5月1日現在)



## 7.2 奨学金

私費外国人留学生の奨学金受給状況は表4のとおりであり、私費留学生の33%が奨学金を受給している。

表4 各種奨学金の受給(身分別)状況(2021年10月1日現在)

奨学金名	学部 (83)	博士 前期課程 (43)	博士 後期課程 (39)	研究生 (12)	特別 研究学生 (6)	特別 聴講学生 (0)	科目等 履修生 (0)	合計 (183)
室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金(月額30,000円)	6	14	14	0	0	0	0	34
室蘭工業大学短期留学生(受入れ)支援奨学金(月額50,000円)	0	0	0	0	0	0	0	0
CSC-MuroranIT奨学金 (月額30,000円)	0	0	3	0	4	0	0	7
JASSO 私費外国人留学生学習奨励費 (月額48,000円)	8	6	3	0	0	0	0	17
北海道外国人留学生国際交流支援事業(月額50,000円)	4	2	2	0	0	0	0	8
JEES 留学生奨学金(修学) (月額40,000円)	0	1	0	0	0	0	0	1
財団法人ロータリー米山記念奨学会 奨学金(大学院)(月額140,000円)	0	1	1	0	0	0	0	2
共立メンテナンス奨学基金奨学金	1	0	0	0	0	0	0	1
財団法人日揮・実吉奨学会 留学生給与奨学金(年額300,000円)	0	1	0	0	0	0	0	1
ドコモ留学生奨学金 (月額120,000円)	0	1	0	0	0	0	0	1
高山奨学金 (月額130,000円)	1	0	0	0	0	0	0	1
朝鮮奨学金(学部) (月額25,000円)	3	0	0	0	0	0	0	3
中国政府奨学金 (月額150,000円、170,000円)	0	0	4	0	6	0	0	10
タイ政府奨学金 (月額172,500円)	0	0	1	0	0	0	0	1
マレーシア MJHEP プログラム (月額132,250円)	4	0	0	0	0	0	0	4
合計	27	26	28	0	10	0	0	91

注1 実受給者数は、60名である。

注2 上段（ ）は、私費外国人留学生数である。

注3 2021年度室蘭工業大学私費外国人留学生支援奨学金の延べ受給者数は、44名であった。

注4 2021年度室蘭工業大学短期留学生（受入れ）支援奨学金の延べ受給者数は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、0名であった。

## 7.3 宿舎

### (1) 研究員宿舎

宿舎名	部屋タイプ
国際交流会館(研究員宿舎)	シングル:6室、ツイン:1室

### (2) 留学生宿舎

宿舎名	部屋タイプ	入居期間
国際交流会館(留学生宿舎1)	1名入居、12室	1年
明德寮	3名入居、25室	1年
大昭グリーンヒル2(留学生宿舎2 ※)	1名入居、6室	1年

※ 2019年10月より大学が借り上げた指定宿舎として運用。

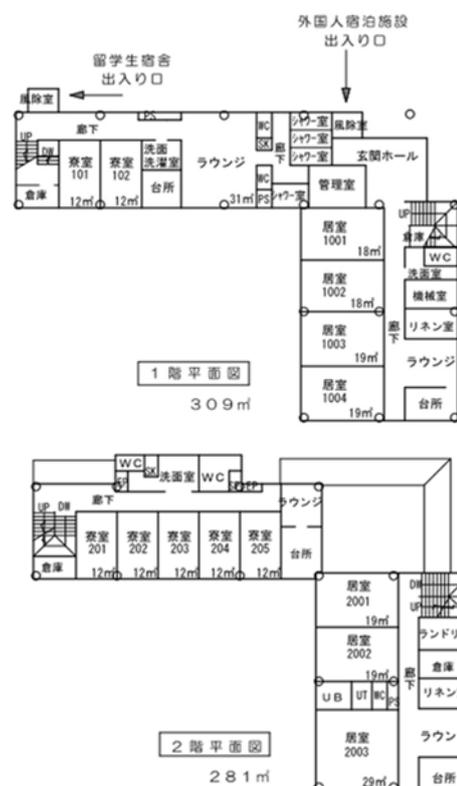
この他に室蘭市から、市営住宅22室を留学生用の宿舎として借り受けている。

#### 7.3.1 国際交流会館

2012年度に職員会館と旧留学生宿舎を改修し、2012年11月に外国人研究員宿泊施設と留学生宿舎を併設した国際交流会館を竣工し、運用を開始した。



外観



国際交流会館 (研究員宿舎)



玄関ロビー



キッチン(共同)



個室

国際交流会館 (留学生宿舎 1)



ラウンジ



キッチン(共同)

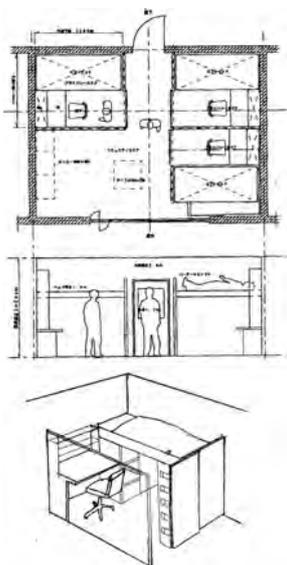
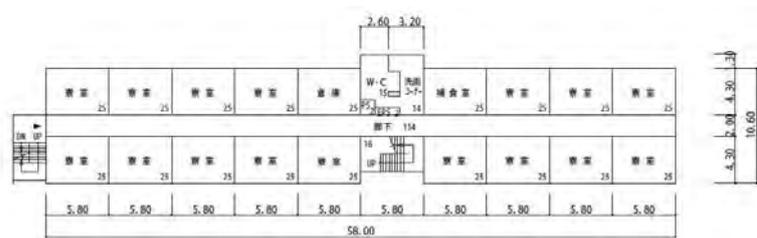


個室

7.3.2 明德寮 A棟 3階(9室)・4階



外観



個室ブース



補食室(各階共同)



浴室(共同)



洗濯室(共同)

### 7.3.3 大昭グリーンヒル 2(留学生宿舎 2)



外観



個室



台所

### 7.3.4 市営住宅(水元団地)



外観



和室



台所

## 8. 国際交流センター教員が担当した講義

### 8.1 国際交流センター教員担当講義一覧

国際交流センター教員が2021年度に担当した講義は、以下のとおりである。2020年度に続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で新規の留学生の多くが入国できず、留学生対象科目も遠隔やハイフレックスで実施したものが多かった。

2021年度前期(第1・第2クォーター)	2021年度後期(第3・第4クォーター)
初級日本語 <sup>注1</sup>	初級日本語
日本語初級 I A	日本語初級 I A
日本語初級 I B	日本語初級 I B
日本語初級 II	日本語初級 II
学部生対象 日本語科目	学部生対象 日本語科目
日本語 A1 (読解)	日本語 A2 (読解)
日本語 B1 (作文) <sup>注2</sup>	日本語 B2 (作文) <sup>注2</sup>
日本語 C1 (科学技術日本語) <sup>注2</sup>	日本語 C2 (日本事情:日本文化と社会) <sup>注2</sup>
日本語 D1 (日本語能力試験対策)	日本語 D2 (日本語能力試験対策)
大学院生対象 日本語科目	大学院生対象 日本語科目
日本語 MA1 (会話)	日本語 MA2 (会話)
日本語 MB1 (作文上級) <sup>注2</sup>	日本語 MB2 (作文上級) <sup>注2</sup>
日本語 MC1 (科学技術日本語) <sup>注2</sup>	日本語 MC2 (日本事情:日本文化と社会) <sup>注2</sup>
日本語 MD1 (作文中級)	日本語 MD2 (作文中級)
学部・大学院 共通科目	学部・大学院 共通科目
海外語学研修 <sup>注4</sup> 【実施なし】	異文化交流 A/B/MB <sup>注3</sup>
海外研修 <sup>注4</sup>	海外語学研修 <sup>注4</sup> 【実施なし】
国際関係論(昼間) <sup>注5</sup>	海外研修 <sup>注4</sup> 【実施なし】
国際関係論特論 <sup>注5</sup>	国際関係論(昼間)[特設クラス] <sup>注5</sup>

注1 初級日本語は、第1クォーターのみ正規科目で、第2クォーター以降は非正規科目(単位付与なし)である。

注2 B1とMB1、C1とMC1、B2とMB2、C2とMC2はそれぞれ同一授業(学部・大学院合同授業)である。

注3 Aは理工学部、Bは工学部、MBは大学院対象の科目名称である。異文化交流B/A/MAの担当は、理工学基礎教育センター所属のクラウゼ小野マルギット教員である。

注4 海外語学研修、海外研修については第12章に述べる。

注5 国際交流センター教員が窓口となって開講している非常勤講師科目である。

### 8.2 初級日本語授業

国際交流センターでは、日本語学習経験が少ない、又は全くない学生を対象に初級レベルの日本語

コースを開講している。主に大学院生、研究生及び本学協定校からの交換留学生在が受講する。

- (1)日本語初級ⅠA(前期) <遠隔、同時双方向・オンデマンド併用>  
担当:山路奈保子 時間数:3時間(2回)/週 受講者数:3名  
使用教材:『日本語初級Ⅰ 大地』(12課まで)
- (2)日本語初級ⅠA(後期) <遠隔、同時双方向・オンデマンド併用>  
担当:山路奈保子 時間数:3時間(2回)/週 受講者数:6名  
使用教材:『日本語初級Ⅰ 大地』(12課まで)
- (3)日本語初級ⅠB(前期) <遠隔、同時双方向・オンデマンド併用>  
担当:伊藤直美(非常勤講師) 時間数:3時間(2回)/週  
受講者数:6名 使用教材:『日本語初級Ⅰ 大地』(13課以降)
- (4)日本語初級ⅠB(後期) <遠隔、同時双方向・オンデマンド併用>  
担当:伊藤直美(非常勤講師) 時間数:3時間(2回)/週  
受講者数:3名 使用教材:『日本語初級Ⅰ 大地』(13課以降)
- (5)日本語初級Ⅱ(前期) <遠隔、同時双方向>  
担当:山本さやか(非常勤講師) 時間数:3時間(2回)/週  
受講者数:2名 使用教材:『日本語初級Ⅱ 大地』(32課まで)
- (6)日本語初級Ⅱ(後期) <遠隔、同時双方向>  
担当:山本さやか(非常勤講師) 時間数:3時間(2回)/週  
受講者数:4名 使用教材:『日本語初級Ⅱ 大地』(32課まで)

### 8.3 学部・大学院 日本語科目

#### 【学部生対象】

正規の日本語科目は、学部生対象科目(中～上級)と大学院生対象科目(初～中級)および学部生・大学院生対象科目(中級)があり、各自が強化したい技能に応じて授業を選択できるようになっている。

- (1)日本語 A1(前期) <遠隔、同時双方向>  
担当:小野真嗣 時間数:1.5時間(1回)/週  
レベル:上級 受講者数:8名  
授業内容:日本語の読解力を高めることを希望する学生向けに、新聞記事を中心とした長文を正確に読解し、選択問題を通じた内容理解、及び記述回答、200字程度の意見論述を行う授業を展開した。
- (2)日本語 A2(後期) <遠隔→対面→遠隔、同時双方向・オンデマンド併用>  
担当:小野真嗣 時間数:1.5時間(1回)/週  
レベル:上級 受講者数:6名  
授業内容:日本語のさまざまな文章を批判的に読み、議論を行うことを通じて、他者の思考を理解し自己の思考を深めること、およびそれを論理的に伝えるための表現力の養成を図った。
- (3)日本語 D1(前期) <遠隔、同時双方向・オンデマンド併用>  
担当:白 尚燁、山本さやか(非常勤講師) 時間数:1.5時間(1回)/週

レベル:中上級 受講者数:4名

授業内容:日本語能力試験N1受験を希望する学生のために、対策問題集を使って語彙・文法・読解を中心に受験対策の授業を行った。

(4) 日本語 D2(後期) <遠隔、オンデマンド>

担当:山本さやか(非常勤講師) 時間数:1.5時間(1回)/週

レベル:中上級 受講者数:8名

授業内容:前期と同様の授業展開である。

【大学院生対象】

(5) 日本語 MA1(前期) <対面、オンデマンド併用>

担当:山路奈保子 時間数:1.5時間(1回)/週

レベル:初級 受講者数:2名

使用教材:『日本語初級2 大地』33課以降

授業内容:初級後半の文型・表現を用いて会話力の向上を図った。

(6) 日本語 MA2(後期) <対面、オンデマンド併用>

担当:山路奈保子 時間数:1.5時間(1回)/週

レベル:初級 受講者数:2名

使用教材:『日本語初級2 大地』33課以降

授業内容:前期と同内容である。

(7) 日本語 MD1(前期) <対面>

担当:山路奈保子 時間数:1.5時間(1回)/週

レベル:中級 受講者数:4名

授業内容:長文読解を行いつつ、関連したテーマで400字程度の説明文や意見文を書く練習を行った。

(8) 日本語 MD2(後期) <対面>

担当:山路奈保子 時間数:1.5時間(1回)/週

レベル:中級 受講者数:4名

授業内容:書き言葉の基本を学び、段落構成を意識しつつ経過の説明や構造・仕様の説明をする文章を書く練習を行った。またプレゼンテーション資料の作成の練習も行った。

【学部・大学院共通】

(9) 日本語 B1・MB1(前期) <ハイフレックス、同時双方向・オンデマンド併用>

担当:山路奈保子 時間数:1.5時間(1回)/週

レベル:中級～上級 受講者数:5名

授業内容:文章作成に必要な日本語の知識の導入と日本語による文章作成の基礎的な訓練を行った。コースの前半では読み手の立場に立った分かりやすい文章の書き方、後半では論理的な文章の構造や表現を扱い、アカデミックな文章を書くための基礎的技能の育成を図った。

(10) 日本語 B2・MB2(後期) <ハイフレックス、同時双方向・オンデマンド併用>

担当:山路奈保子

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:中級～上級

受講者数:5名

授業内容:さまざまな作文課題やクラスでのディスカッションを通して、日本語のアカデミック・ライティング能力および論理的思考力の養成を行うとともに、論理的文章の作成に必要な様々な表現を目的に応じて使用できるようになるための訓練を行った。

(11) 日本語 C1・MC1(前期) <遠隔、同時双方向>

担当:小野真嗣

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:中級

受講者数:6名

授業内容:科学技術分野にかかわるトピックのテレビ番組や雑誌記事等を材料に、大学・大学院で学ぶための基礎的な語彙・表現を理解し適切な文脈で使用できるようになるとともに、抽象的な事柄を説明する文章を組み立てられるようになることをめざす総合的な訓練を行った。遠隔授業により、Moodle を介してビデオ映像や音源の配信が容易になり、授業外の視聴も一部で自主的に行われていたようである。

(12) 日本語 C2・MC2(後期) <遠隔→対面→遠隔、同時双方向・オンデマンド併用>

担当:小野真嗣

時間数:1.5時間(1回)／週

レベル:中級

受講者数:4名

授業内容:日本の文化・社会に焦点を当て、導入教材として文献資料やビデオを用い言語受容力を養いつつ、日本と自国の慣習、文化、宗教等の差異についても客観的に説明できる発信力の養成を図った。遠隔授業により、Moodle を介してビデオ映像や音源の配信が容易になり、授業外の視聴も一部で自主的に行われていたようである。

#### 8.4 学部 副専攻科目・大学院 副専修科目

上記の日本語科目の他、国際交流センターでは学部生対象副専攻科目と大学院生対象副専修科目がある。こちらは留学生専用科目ではなく、日本人学生と一緒に学ぶ共修科目となる。

##### (13) 異文化交流 A・B・MB(後期) <遠隔→対面→遠隔、同時双方向・オンデマンド併用>

担当:小野真嗣

時間数:1.5時間(1回)/週

レベル:上級

受講者数:17名

授業内容:日本人学生と外国人留学生の合同参加科目であり、教員による講義の他、学生間の調査活動を通じ、授業内アクティビティやプレゼンテーションを行って文化理解を相互に深める授業である。前半は公用語に焦点をあて、各国の言語運用事情や背景について国籍別グループによる集団発表とし、後半は文化に関するトピックを学生が個々に選び、国籍混合型グループにより国・地域別の違いに留意した調査活動・発表とした。2020年度は外国人留学生の参加が極めて少なく、例年の日本人学生と半数ずつという環境が構築できない反面、遠隔授業の特性を活かし、オーストラリア RMIT やモンゴル IET といった協定校学生との交流機会を複数回授業に導入し、様々な異文化交流機会の確保に努めた。

##### (14) 国際関係論(学部昼間コース、前期・集中講義) <遠隔、同時双方向>

担当:宮本融(非常勤講師)

時間数:1.5時間(15回)・5日間集中

レベル:上級

受講者数:93名

授業内容:国際関係の諸理論と問題領域を学びながら、国際関係論の基本的な分析枠組みと言語の習得を目指し、国際関係分析の理論的枠組みの骨格をつかむことを狙いとした。国際関係論の主要理論である現実主義・自由主義や、それらに批判的な見方を紹介し、諸理論の視点から現代世界の諸問題をどのように理解することができるのか、人類が抱える具体的な諸問題を扱った。

##### (15) 国際関係論特論(大学院、前期・集中講義) <遠隔、オンデマンド>

担当:渡部淳(非常勤講師)

時間数:1.5時間(15回)・5日間集中

レベル:上級

受講者数:10名

授業内容:国際関係分野の中でも特に国際政治経済学に焦点を絞り、資本主義の発達、市場の拡大、技術革新などが世界の政治や社会に及ぼす影響を考える分析枠組みと事例に焦点を合わせた授業とした。加速度的に進展する現代のグローバル化を政治社会の市場化・経済化の側面から説明した。

##### (16) 国際関係論(学部昼間コース・[改組に伴う特設クラス]、後期・通常開講) <遠隔、オンデマンド>

担当:渡部淳(非常勤講師)

時間数:1.5時間(2回)/週(12月~1月)

レベル:上級

受講者数:23名

授業内容:本授業は、本学の工学部から理工学部への改組に伴い、履修科目の制約が生じてしまった学生に対してのみ、学務課より特別に開講依頼があつて後期年度途中より開講した特設クラス科目である。内容は前期集中講義と同様である。

## 9. 室蘭工業大学国際セミナー

同セミナーは、学生と市民の皆さんとともに、世界のさまざまな国や地域について勉強し合い、国際的な視野を拓けることを目的としている。

第 51 回 室蘭工大国際セミナー

開催日： 2021 年 11 月 12 日

テーマ： 「I' ve been walking on... ～留学と駐在が少し延ばしたレールのその先～」

講演者： 東芝インフラシステムズ株式会社 海外鉄道システム技術部  
スペシャリスト 森田拓愛氏



ZOOM 画面上での参加者との記念撮影の様子

## 10. 留学生を対象とした行事及び研修等

### 10.1 国際交流センター主催行事

開催日	行事名	行事の内容	参加者数
2021年 6月9日	留学生オリエンテーション	新たな留学生に対して、オンラインにて留学生関係教職員の紹介を行い、日本での生活上の注意事項を説明する。	留学生 8名
2021年 5月下旬	新入学生歓迎会	新たな留学生に在籍中の留学生及びチューターを紹介し、懇親会を行う。	中止(※)
2021年 6月中旬	登別鬼花火見学会	室蘭周辺の観光名所を案内する目的で、登別温泉の名物行事「登別鬼花火」を見学。	中止(※)
2021年 8月上旬	国際交流センター長杯 玉入れ大会	前期の授業終了に合わせ、国際交流センター長杯玉入れ大会を実施する。ゲームの後は、応援していた学生を含む参加者全員でおつかれさま会を行い、交流を深める。	中止(※)
2021年 9月上旬	夏の見学旅行	留学生に対し、北海道内の自然や特有の産業施設等を見学させることによって、北海道の文化、歴史、産業等についての知識・理解を深める。	中止(※)
2021年 9月下旬	9月卒業・修了おめでとう 送別会	9月修了生(短期留学生含む)の修了を記念して、送別会を実施した。	中止(※)
2021年 10月中旬	秋季新入生歓迎ウェルカム ランチパーティー	新入留学生を対象にランチパーティーを行い、寮のリーダーの紹介等を行う。	中止(※)
2021年 10月24日	秋の見学旅行	4月以降に入学した留学生を中心に、室蘭市・壮瞥町・洞爺湖町の観光名所を案内し、胆振地域に関する理解を深めさせるとともに、留学生同士の交流を図る目的で実施した。	留学生・家族 36名
2021年 12月2日	生活安全講習会	2021年度入学の留学生を対象に、交通事故、火災、地震及びインターネット犯罪などの事件・事故の防止のため、留学生生活安全講習会をオンラインで実施した。	留学生 31名
2022年 1月4日	野外セミナー	南国出身が多く、冬期間部屋に閉じこもりがちな留学生に対して、北国の冬期間の楽しみ方を紹介している。	留学生 38名
2022年 2月16日	留学生交流会	卒業・修了予定の留学生に対して学長からお祝いの挨拶があり、スライドショーが上映された。	留学生 16名

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。



秋の見学旅行



野外セミナー



留学生交流会

## 10.2 学外の諸行事への留学生派遣及び参加の状況

### 10.2.1 講師派遣

開催日	主催	行事名	留学生派遣人数
2021年4月～2022年3月	室蘭身体障害者福祉協会	英会話講座講師派遣	2
2021年10月28日29日	蘭北小学校	国際交流教室	2
2021年12月4日	登別明日中等教育学校	AKB English Day (オンライン開催)	3
2021年12月6日	みなと小学校	国際交流教室	2
2021年12月15日	八丁平小学校	国際交流教室	3
合 計			12

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。



蘭北小学校での国際交流教室の様子



八丁平小学校生徒からのお礼状

### 10.2.2 学外支援団体等支援行事

開催日	主催	行事名	行事の内容	留学生 参加人数
2021年 5月上旬	長沼ロータリークラブ	長沼国際交流フェスティバル	長沼国際交流フェスティバルに 本学の留学生が参加。	中止(※)
2021年 5月下旬	室蘭北ロータリークラブ	室蘭岳登山	室蘭北ロータリークラブ主催によ り、室蘭岳(標高 911メートル)登 山が開催され、室蘭北ロータリ ークラブの皆様と登山をしながら 交流を深める。	中止(※)
2021年 6月下旬	室蘭市	イルカ・鯨ウォッチング	室蘭市の招待によりイルカ・鯨ウ ォッチング体験乗船に参加す る。	中止(※)
2021年 7月下旬	むろらん港まつり実行 委員会	市民踊り	むろらん港まつりのイベントの1 つである「総参加市民おどり」に 留学生が参加する。大学職員と ともに「室蘭ばやし」や「北海盆 唄」に合わせて街を踊り歩き、日 本のお祭りを楽しむ。	中止(※)
2022年 2月上旬	室蘭市国際交流推進 協議会 (協賛:国際ソロプチミ スト)	さっぽろ雪まつり見学会バス ツアー	・雪まつり大通会場の見学。 ・北海道大学総合博物館の見 学。	中止(※)
2022年 2月中旬	日本語サロン(室蘭市 国際交流推進協議会) 国際交流市民協力員 有志一同	日本の伝統文化を楽しむ会	・卒業して室蘭を離れる留学生 とその家族のためのパーティ ー。 ・日本着物の着付けや茶道、華 道の体験。 ・着物を着てファッションショー や記念撮影会。	中止(※)
合 計				0

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。

### 10.2.3 その他の行事

開催日	主催	行事名	留学生 参加人数
随時	室蘭社会福祉協議会	雪かきレンジャー	11
合 計			11

## 11. 学術交流協定校・機関との交流

### 11.1 協定校等への訪問

新型コロナウイルスの影響(COVID-19)により、外国及び協定校等への訪問実績なし。

### 11.2 外国、協定校等からの訪問受け入れ

新型コロナウイルスの影響(COVID-19)により、外国及び協定校等からの訪問受け入れ実績なし。

### 11.3 共同セミナー、共同事業等の実績について

#### (1) MuroranIT Rare Earth Workshop 2021

日時：2021年10月27日～28日

主催：室蘭工業大学 希土類材料研究センター

概要：MuroranIT Rare Earth Workshop は、2016年に始まった国際ワークショップで、2021年に5回目を迎えた。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、2020年に続いてオンラインでの実施となった2021年のワークショップは2日間開催され、招待講演14件、ポスター発表23件が行われた。

参加機関：エイムズ研究所（アメリカ）、ジェノバ大学（イタリア）、バラチダッサン大学（インド）、チェンマイ大学（タイ）、中国科学院（中国）、ニコラエフ無機化学研究所（ロシア）、室蘭工業大学、大阪大学、岩手大学、芝浦工業大学（日本）

# Muroran Institute of Technology Rare Earth Workshop 2021 October 27-28, 2021 ONLINE



## 12. 学生の海外への派遣

### 12.1 派遣プログラム

以下の 2021 年度派遣プログラムについて、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、すべて中止となった。

- ・本学学術交流協定校への派遣留学
- ・アメリカ・ウェスタンワシントン大学(WWU)英語研修
- ・オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)語学研修
- ・ヨーロッパ語学研修(ツヴィッカウ応用科学大学を中心に)
- ・中国・華中科技大学短期研修
- ・国際共同研修プログラム
- ・ムロラン・グローバル・ステージ・チャレンジ奨学生

### 12.2 佐藤矩康博士記念国際活動奨励賞

本奨励金は、年 2 回募集し、8 名程度に各 10 万円を授与する。

#### 賞の由来と趣旨

本奨学賞は、医学博士で博士(工学)である佐藤矩康先生のご寄附によって、2009 年に創設されました。本学在学中の学部及び大学院の学生が海外国際会議での論文発表、海外での研究プロジェクト参画、海外インターンシップなど、国際的な場で活動し、成果を上げることがを支援し、奨励することを目的としています。

佐藤矩康先生は昭和 2 年、北海道富良野町に生まれ、北海道大学医学専門部を卒業後、医師、医学博士として医業に従事される傍ら、多年、刀剣考古学の研究に携わり、平成 18 年「X 線 CT 法による上古刀のはばき構造の解析」によって室蘭工業大学から博士(工学)の学位(主査 桃野正教授)を授与されました。また長年、私的な奨学財団により学生生徒の就学を支援しておられます。

本奨学賞が、学生の皆さんの国際意識・国際能力の向上に繋がり、ひいては室蘭工業大学の教育研究の活性化にいささかでも寄与することを希望します。

故 佐藤矩康(さとう のりやす)博士 略歴

- 昭和 2 年 4 月 北海道富良野町生まれ  
名寄小学校、名寄中学校を経て、
- 昭和 25 年 3 月 北海道大学医学専門部卒業
- 昭和 25 年 4 月 北海道立札幌医科大学内科学教室入局 医師
- 以後 日高門別町 町立病院内科医長、南幌町 町立病院院長 等を歴任
- 昭和 34 年 10 月 札幌市白石区にて、眼科医和子夫人と「内科眼科共立診療所」開設
- 平成 12 年 4 月 信佑会吉田記念病院医師、聖愛会発寒中央病院医師
- 平成 23 年 9 月 逝去

2021 年度の本奨学賞について、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。

### 12.3 留学 WEEK

留学経験者の報告により派遣留学の意義と効果を広くPRする広報活動であるが、2021年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。

### 12.4 海外語学研修説明会

各語学研修に参加した学生の体験発表後、研修担当教員から語学研修の概要を説明し、幅広く語学研修のPRをする目的で実施する説明会であるが、2021年度は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、中止となった。

### 12.5 海外活動懇談会

海外留学や異文化交流した先輩から体験談を聞くことができる懇談会を12月3日に実施した。本学卒業生の中野佑美氏(現 北海道大学大学院)、永倉利樹氏(現 ドイツ・ポツダム大学博士課程/研究員)をお招きし、本学のプログラムによる海外留学の体験談を紹介してもらった。また、在学生の後藤梨那さん(創造工学科1年)と角野拓実さん(創造工学科2年)から、国内留学/地域内留学に関する研修体験談を発表してもらった。異文化交流 A の受講者を中心に、20名の本学学生が本懇談会に参加し、大変有意義な情報共有が行われた。

**海外活動懇談会(旧 留学帰国報告会)**  
**(留学体験談/国内留学紹介/各種サポート情報)**

懇談会日時・場所  
**12月3日(金)**  
18:00～19:30 (最大延長 20:00)  
**Zoom Meeting**  
ID: 889 4358 3416 / PW: ryugaku

◆国内留学/地域内留学に関する研修体験談・プログラム報告(18:10～18:40)  
派遣先:室蘭近郊・北海道内の地域資源を活かした外国人留学生との国際共修体験  
後藤梨那(創造工学科1年):協定校とのオンライン交流と地域内国際共修 他  
角野拓実(創造工学科2年):留学生とのオンサイト活動とYouTube動画作成 他

◆室工大卒業生による海外留学体験談・プログラム報告(18:45～19:25)  
派遣先:本学卒業生による海外留学体験や国内異文化体験の紹介  
中野佑美(建築社会基盤系学科卒・現 北大大学院生):フィンランド留学 他  
永倉利樹(応用理化学系学科卒・現 独ポツダム大研究員):ドイツ留学 他

◆Zoom Breakout Table Discussion(19:30～20:00)  
発表者を囲んでの情報共有のための談話会(参加任意)  
少人数に分け、円卓会議風にブレイクアウト機能を用いて上記報告者を囲み、情報交換を行います。気軽にどンドン質問したりして、ご自身の将来の留学設計に役立てたり、報告者からのさらに詳しい体験談を直に伺うことができる場になります。

次の留学は君の番だよ

お気軽にお問合せください  
問合先:国際交流センター(N203-1) 小野  
TEL:0143-46-5882 MAIL:onomasa@mmm.muroran-it.ac.jp

海外活動懇談会ポスター

## 12.6 オンライン異文化交流

海外留学に代わる取組みとして、本学学術交流協定校とのオンライン異文化交流を実施した。

### 【オーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学(RMIT)日本語授業 TA ボランティア】

日 時: 第1回 2021年5月17～19日  
第2回 2021年10月11～13日  
内 容: RMITで行われる日本語授業のTA( Teaching Assistant)ボランティア  
方 法: Blackboard Collaborate を用いたオンライン交流  
参加学生数: 延べ35名

### 【モンゴル・工業技術大学(IET) International Club Meeting】

日 時: 2021年5月13日～7月8日  
内 容: 英語や日本語による海外大学の学生とのコミュニケーション及び異文化交流  
方 法: Zoomを用いたオンライン交流  
参加学生数: 17名

## 12.7 国内留学/地域内留学

海外留学に代わる取組みとして、日本国内で実施する国際活動研修を実施した。

### 【室蘭モルセラニ留学 ―御膝元室蘭の鉄・港・橋―】

日 時: 2021年9月15～16日、10月16～17日  
内 容: 本学の立地条件や役割を日本遺産「炭鉄港」の観点から眺めてみるプログラムである。9月には、100度を超える源泉が沸く登別大湯沼、室蘭港湾を船で回り製鉄・製鋼の工場群を見学した。10月には、砂川ハイウェイオアシスにある世界七不思議のミニチュア建造物(ピサの斜塔等)の見学、三笠にある本学研究施設における石炭地下ガス化実験、栗山の小林酒造見学等を行った。  
方 法: 開催地で実施する対面方式  
参加学生数: 7名

### 【宮崎フェニックス留学 ―日本神話と文化に迫る・酒作り―】

日 時: 2021年12月16～18日  
内 容: 宮崎大学工学部及び宮崎国際大学が受入れホストとなり、現地の日本人学生及び留学生と日本文化について共修するプログラムである。宮崎大学博物館、都城の霧島酒造、綾町の綾城天守閣、照葉大吊橋の見学等を実施した。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する行動制限緩和を受け、初の道外研修として企画・実施した。  
方 法: 開催地で実施する対面方式  
参加学生数: 2名

### 【北見オホーツク留学 ―留学生と考える防災―】

日 時: 2022年2月17～19日  
内 容: 北見工業大学国際交流センターが受入れホストとなり、現地の外国人留学生とともに防災について共修するプログラムである。座学として、防災パンフレットに記載された日本語の読解、ハイゼックスによる防災食調理体験、段ボールベッドの組立体験、寒冷地工学の実験施設見学、流氷砕氷船乗船体験等を実施した。  
方 法: 開催地で実施する対面方式  
参加学生数: 2名

【栃木ホールワールド留学 ―理工学交流と海外疑似訪問―】

日 時: 2022年3月3～5日

内 容: 小山工業高等専門学校が受入れホストとなり、現地の専攻科生による実験施設紹介及び工学研究紹介交流をはじめ、日本国内で世界観光ができる東武ワールドスクエアを訪問し、疑似留学体験を実施した。アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ及び中国並びに本学の主力留学プログラムにおける現地訪問の代替性確保の試行実践として企画・実施したものである。

方 法: 開催地で実施する対面方式

参加学生数: 4名



室蘭モルセラニ留学



宮崎フェニックス留学



北見オホーツク留学



栃木ホールワールド留学

## 13. 外国人短期研修生・外国人インターンシップ研修生・外国人研究員受入れ

### 13.1 外国人短期研修生受入れ

外国人短期研修生受入れ制度は、本学の学術交流協定校の正規課程に在籍する外国人学生が本学において研修（講義、演習、実習等）を受けるものである。

RMIT 日本語研修生受入 ※2021 年度は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により、中止となった。

期 間：10 月下旬～11 月中旬

内 容：本研修は、本学学術交流協定校のオーストラリア・ロイヤルメルボルン工科大学 (RMIT) で日本語を学ぶ学生の受け入れである。当研修は、夏に実施した本学の RMIT 短期派遣研修と双方向の研修として行われ、学生同士が活発に交流を行う。日本語による授業、北海道の自然や文化施設等の見学、ホームステイ体験及び実施体験等により研修を行う。

### 13.2 外国人インターンシップ研修生及び短期研修生受入れ

インターンシップ研修生受入制度は、外国の大学の正規課程に在籍する外国人学生が、本学において実施する研究、実験、解析、設計、製作等の研修プログラムに参加するものである。2021 年度は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により、受入れ実績がなかった。

短期研修生受入制度は、本学と学術交流協定を締結している外国の大学の正規課程に在籍している学生で、本学において3月以内の研修（講義、演習、実習等）に参加するものである。2021 年度は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により、受入れ実績がなかった。

### 13.3 外国人研究員受入れ

本学独自の滞在費支援制度である室蘭工業大学外国人客員研究員支援経費は、2012 年度から国際連携による共同研究の展開を目的として創設された。

2021 年度は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により、受入れ実績がなかった。

## 14. 国際交流クラブ

国際交流クラブは、本学の公認課外活動団体（学生サークル）で、1994年に、その当時の留学生（院生）数人が中心となり、自分たちより年若い日本人の学生たちに、親睦と交流を呼びかける形で発足した。

その後、意識の高い日本人学生たちが積極的に呼応して「国際交流クラブ」が創設され、以来20年以上が経過して留学生の数も出身国も増えたことにより、一年を通じて活発に国際交流が行われるサークルとなった。

大学祭への参加や、お花見やジンギスカンなど、日本・北海道らしい活動をともしするほか、日常生活の中で留学生と日本人学生の交友・交流が見られるようになったのは、国際交流クラブの大きな功績といえる。

国際交流センターにおいても、国際交流センター専任教員が顧問教員を務めるほか、センターとして国際交流クラブの活動にさまざまな形で支援を行なっている。また国際交流センターが行う行事に国際交流クラブの部員が参加又は協力し、海外研修などにも応募者を出すなど、国際交流センターと密に関係を保ちつつ、学生側の国際交流活動の窓口として、また主体として大いに活躍している。



国際交流クラブの活動の様子

## 15. 広報活動

### 15.1 国際交流センターホームページ



日本語版トップページ



英語版トップページ

### 15.2 英文概要・国際交流センターNews



英文概要



国際交流センターNews 13号

### 15.3 オリジナルグッズ



風呂敷



スマホスタンド



トートバッグ



ポケットティッシュ

#### 15.4 広報活動グッズ



旗



イスカバー

## 16. 教員の研究活動

### 山路奈保子

#### ○講演（招待講演）

- (1) 山路奈保子：オンラインで国境を越えて学べる時代に大学で日本語授業を行う意義，2021年 国立台中科技大学(台湾)応用日語系創系 40周年記念大会，2021年5月28日(オンライン開催)

#### ○外部資金獲得

- (1) 科学研究費補助金 基盤研究(C)「研究室コミュニケーションのための初級後半レベル日本語 教育用教材の開発」 (研究代表者)
- (2) 科学研究費補助金 基盤研究(C)「パブリックスピーキングにおける「説得」のマルチモーダ ル分析」研究代表者：深澤のぞみ (研究分担者)
- (3) 科学研究費補助金 基盤研究(B)「日本語読解・ライティングの方法に影響する母国語・母 文化の教育的背景要因に関する研究」研究代表者：村岡貴子 (研究分担者)

### 小野真嗣

#### ○論文

- (1) 小野真嗣，曾我聡起：海外留学に代わる国際共修活動の実践とその評価－ユーザーエク スペリエンス調査に基づく定量的な満足度分析の試み－，CIEC 春季カンファレンス論文集，13， pp. 29-34，コンピュータ利用教育学会。(査読付)
- (2) 上村浩信，木元浩一，清末愛砂，工藤ローラ，前田潤，森田英章，小野真嗣，ペレム・ジョ ンガイ，塩谷亨，サステナンス・スコット，山路奈保子：ひと文化系領域教員によるコロナ禍 における遠隔授業の取り組みについて，室蘭工業大学紀要，71，pp. 53-56，室蘭工業大学。(査 読無・本学紀要特集論文)

#### ○講演

- (1) 小野真嗣：室蘭工大におけるコロナ禍海外留学代替活動「モルセラニ留学」の試行，2021年 度北海道大学情報基盤センター主催研究集会“コロナ禍における海外体験、異文化接触、英語 学習をどう行うか”パネルディスカッション (コーディネータ兼パネリスト)，2021年11月 19日，Zoom Online.

#### ○研究発表（口頭発表）

- (1) 阿部奈津輝，小野真嗣：海外渡航に代わる国内留学体験の一考察－オンラインとオンサイ トを併用したテーマ学習－，コンピュータ利用教育学会(CIEC)北海道支部 PCカンファレンス 北海道2021，PCCH2021大会予稿集，pp. 11-14，2021年11月27日，Zoom Online.
- (2) 小野真嗣，曾我聡起：ユーザーエクスペリエンスによる言語学習評価モデルの検討－VR英 会話活動の試行実践－，コンピュータ利用教育学会(CIEC)北海道支部 PCカンファレンス北海 道2021，PCCH2021大会予稿集，pp. 30-31，2021年11月27日，Zoom Online.

- (3) 塩原ひかり, 小野真嗣, ジャガダグスレン・ウランツォージ, ゲレル・ウルジーナラン: 外国人留学生との国際共修と地域内留学 –コロナ禍の海外研修に代えて–, 第27回高専シンポジウムオンライン, 2022年1月22日, Teams Online.
- (4) ビヤムバ・テレゲル, フレルスフ・オチルスフ, ゲレル・ウルジーナラン, 小野真嗣: モンゴルコーセン生の日本語実践訓練 –室蘭工大とのオンライン交流を通じて–, 第27回高専シンポジウムオンライン, 2022年1月22日, Teams Online.
- (5) 小野真嗣: 国内留学/地域内留学の構築と試行 –海外研修に代わる学修プログラムの実践– (ユニット研究報告 続・コロナ禍の国際交流 –遠隔・対面・仮想空間–), 北海道言語研究会 第22回例会, 2022年3月28日, 室蘭工業大学.

#### ○外部資金獲得

- (1) 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「留学生リソースの共有活用による多地点異文化交流を通じた地方大学外国語学習再起」研究代表者. [コロナ禍による事業年度延長]
- (2) 科学研究費補助金 基盤研究 (C) “Virtual Ryugaku: measuring iconicity in VR in relation to language acquisition and cross-cultural communication” 研究分担者.
- (3) 北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究 (B) 「オンラインとオンサイトの併用による海外派遣代替プログラムの検討」研究代表者.
- (4) 北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究 (B) 「プログラミング的思考と情報スキルの育成を両立した指導プログラムの検討」研究分担者.

#### 白 尚燐

##### ○論文

- (1) 白 尚燐, 地域言語学的観点から見たツングース諸語の定動詞直説法の時制体系, 北方言語研究 12号, pp.147-166, 2022年3月.

##### ○資料・研究ノート

- (1) 白 尚燐, 文法調査質問紙に基づくソロン語例文, 北方言語研究特別号, pp.139-157, 2022年3月.

##### ○研究発表 (口頭発表)

- (1) BAEK Sangyub, Differences of purposive markers in Tungusic from the perspective of areal linguistics, Seoul International Altaistic Conference 2021, 2021年7月16日 (オンライン).
- (2) 白 尚燐, 地域言語学的観点から見たツングース諸語の定動詞直説法の時制体系, 日本北方言語学会 第4回大会 (兼国際シンポジウム), 2021年11月6日 (オンライン).
- (3) 白 尚燐, ツングース諸語における目的節形成形式とその用法の相違について, 2021年度第1回「「アルタイ型」言語に関する類型的研究(2)」共同利用・共同研究 課題研究会, 2022年3月31日 (オンライン).

○外部資金獲得

- (1) 科学研究費補助金 研究活動スタート支援「ツングース語族における地域的分布と類型論的相違の相関性について」(研究代表者)。
- (2) 科学研究費補助金 若手研究「サハリンエウエンキ語の記述：サハリンにおける言語接触とその歴史的変遷の解明」(研究代表者)。
- (3) 科学研究費補助金 基盤研究(A)「シベリア先住民諸語の総合的研究：文献以前の歴史的空白の解明と言語類型論への展開」(研究分担者)

## 17. おわりに

国際交流センター准教授 小野 真嗣

2021年度の国際交流センターは、センター教員の山路奈保子教授がセンター長に就任されるといって非常に明るい話題で幕を開けました。野口理事・副学長によるセンター長就任以来、歴代の連携担当理事がセンター長を兼務されておりましたが、空閑学長より山路教授に辞令が出されることにより、センター教員からセンター長が任命され、現場目線でのセンター活動に期待感が膨らみ、コロナ明けを予感させました。しかし現実にはコロナ禍2年目を迎え、コロナ対応に翻弄され、引続き厳しい状況でのセンター活動を余儀なくされた年となりました。各章をご覧になられてご理解頂けるとは思いますが、ほとんどの活動が中止や延期、またオンラインに切り替えて実施した内容であり、2019年度以前の対面性のある明るく活発な活動は影を潜めました。留学生支援を所掌する国際交流センターとして、留学生と対面で触れ合う機会が非常に限られてしまうことは大変残念でなりません。しかしながら、コロナ初年度と変わって、コロナウィルス対応の知見が得られてきたことから、感染予防対策を施した中での対面活動が徐々に解禁されてきたことも少しずつ実感できるようになりました。例年行っていた室蘭岳登山や登別鬼花火鑑賞は中止となりましたが、その代替活動として、本学グラウンドにて手持ち花火大会を新たに企画し実施できました。これが2021年度最初の留学生向け行事となりました。ただ、センター教職員が前面に出て企画実施するにはBCPに基づく職員行動指針による活動制限等もあり、国際交流クラブによる学生活動として実施し、筆者がクラブ顧問として学生指導に入る形でクラブ活動として実施できたものでした。マスクを着用し、アルコール手指消毒をして、ソーシャルディスタンスを保ちながらも、友人達と屋外で花火を楽しみながら、日本人学生と外国人留学生在が対面で交流し合う姿を見て、本来なら見ることができたであろう情景を再確認できました。学生達もパソコンの画面越しの交流では得られない充実感を得ているようでした。着実にコロナ禍でもウィズコロナとして対面活動の解禁・再開に向かいつつあり、今だけが我慢する時だと改めて感じたところです。手持ち花火大会の後も、幸いなことに秋の見学旅行バスツアー、冬の野外セミナー（スキー学習）なども実施でき、留学生にも室蘭ならではの学修体験を提供することができました。

一方、国際交流室の事務業務は、新規入国の留学生受入れの部分で今まで以上に多忙化しまし

た。日本政府の水際対策、またその対策が時々刻々と変化することにより、その時その時の基準にて受入手続きを行っていくことから、関係省庁や一部業務委託した旅行会社との頻繁なやり取りが発生する事態にもなりました。また、国際交流委員会の所掌事項においても、委員長の指示の下で各現行制度の見直しに対する指針が都度示され、そのことについて国際交流センター長を中心に受入・派遣・協定の各担当にて原案作成を行って改善へ努めて参りました。具体的には、外国人留学生に対する奨学金受給者選考方法をはじめ、日本人学生の海外派遣ではコロナ禍の事象に対応させるための海外派遣マニュアルの全面改正などがあげられます。また、年度末には第四期中期目標に向けた部局年度計画の策定もあり、1年を通じてセンターにおける各制度改革に努めた年となりました。

さて、最後になりますが、年度末の2・3月で国際交流センターでは激震とも言える人事異動がございました。2月には約10年に渡ってご助力頂いた野田葉津希事務補佐員がご退職となりました。続く3月には、年度当初にセンター長に就任されたばかりの山路奈保子教授が本学における12年のご奉職をもってご異動となり、九州工業大学教養教育院へご栄転となりました。また、旭川医大への出向復帰で直後に国際交流室再登板で大変心強く信頼の厚い大きな存在だった武川梢留学生係長もご自身のご結婚を機にご退職されました。女性教職員3名が同時期にセンターを離れられることは、残された男性陣も失意のどん底に陥ったことは言うまでもありませんが、御三方が新天地でより一層輝かしいご活躍をなされますようお願い申し上げます。それぞれの地から、国際交流センターへの応援を早くも心待ちにしております。

2022年度もまもなく迎えますが、コロナ禍3年目となります。コロナ感染者数は横ばいながら、ワクチン3回目接種を進めつつ、行動制限無しの日常生活に戻りつつある情報も届いており、教育研究や学生支援の対面活動解禁にも期待が寄せられます。皆様からの変わらぬご支援、ご協力のほど、宜しく願い申し上げます。



室蘭工業大学 国際交流センター

〒050-8585 室蘭市水元町27番1号

<https://www.muroran-it.ac.jp/oia/>

E-mail: kokusai@mmm.muroran-it.ac.jp

TEL: (0143)46-5886

FAX: (0143)46-5889

